

ご挨拶

同窓会会長 西村貞一(45回)



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては明るい新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

また、今年卒業される新入会の方々には受験を控えて緊張されていると思いますが、体調を整えて大いに実力を発揮されますように期待しておりますし、同窓会に入会をされた事を大いに歓迎いたします。我々にとっては新しい仲間が増えることは嬉しい限りであります。

さて、同窓会の活動ですが、昨年は4月25日の総会で私が2期目の会長に選任されてスタートとなりました。8月30日の会員総会、10月26日の秋の甲陽ゴルフ会、11月22日にはサントリー山崎蒸留所を見学する会員交流会の開催と順調に計画をこなしてまいりました。

甲陽ファンドは、宮本茂先生(17回)の大口寄付もあり、平成26年4月1日から12月31日までの醸金金額305万円、醸金数95件、醸金合計金額は6,146万円(平成26年12月末現在)と順調に集まっております。奨学金については9名に支給を行いました。そして今回から、新たに成績優秀な学生に対してその顕著な功績を顕彰する事とし、日本化学会の化学グランプリの金賞を受賞された阿知波亮君(95回)に甲陽ファンド優秀賞を贈りました。

同窓会として今年からの最も大きな事業は、懸案の同窓会の会員名簿を発行するために名簿発行委員会を発足させたことで、久義裕君(62回)が委員長となり、株式会社サラトを活用しながら、平成29年甲陽学院創立100周年の節目に発行する準備を整えました。

発行準備の活動が最高潮になる平成28年には同窓会会員の皆様には、名簿のチェック、同級生への連絡、広告の集稿等に多大なご尽力をお願いすることになりますが、大いに互いの力を結集していただきご協力賜ります様お願いを申し上げ、私の新年のご挨拶とさせていただきます。



発行所
〒662-0096 西宮市角石町3-138
甲陽学院同窓会
発行人 西村貞一
印刷所
株式会社小西印刷所
西宮市今津西浜町2番60号
TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用
TEL 0798-71-4888
(月・水・木 10:00~16:00)
FAX 0798-71-4890
E-mail :
fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp
同窓会ホームページ
<http://www.koyogakuin-oba.jp>

予告

今年の会員総会は8月29日です!

8月29日(土)13時~16時30分 於:ノホテル甲子園

☆講師は酒鬼薔薇事件で付添人団長を務めた野口善國弁護士(46回)、テーマは「少年犯罪は増えているのか(仮題)」。

☆第二部では、静利一郎先生バンドがゲスト出演!

☆総合司会は、今年もテレビで活躍中の高橋知裕さんです。

☆今回の主役となるホームカミング学年は、46回生(卒業50年)、61回生(卒業35年)、71回生(卒業25年)です。ホームカミング学年の方はふるってご参加ください!

☆現在会員総会運営委員会にて鋭意準備企画中。詳細は次号「甲陽だより」(7月下旬発行予定)にて発表します。



レストラン&カフェ
AM11:00~PM10:00
(ラストオーダーPM9:00)
明治時代の酒蔵を
シック&カジュアルな和空間に。
0798-35-0001

ミュージアムショップ
AM10:00~PM7:00
蔵元ならではの、
お酒にまつわるアイテムが大充実。
0798-35-0286

西宮市鞍掛町(礼場筋・臨港線交差点)
■定休日/火曜日
酒ミュージアム
白鹿記念酒造博物館
AM10:00~PM5:00
(入館は4時30分まで)
日本固有の文化「酒づくり」を未来へ伝承。
0798-33-0008

会 務 報 告

平成26年11月25日に行われました同窓会理事会における議論を中心に、会務についてご報告いたします。

1 会報「甲陽だより」

第90号を平成26年7月31日付で発行しました。
次号第91号の原稿は1月10日締切、3月頃発行予定とのことでした。

2 夏の会員総会

平成26年8月30日(土)の午後1時から午後4時半までノホテル甲子園におきまして、恒例の夏の会員総会を挙行しました。

第1部は1階「鳴尾の間」にて式典と講演会。講師は元宝塚歌劇団星組スターの桐生のほるさんで、演題は「もてる男になる方法」でした。宝塚歌劇団にまつわるクイズを交えながら、「もてる男になるには姿勢から」ということで一同その場に起立して「もてる姿勢」を学びました。



第2部は、会場を2階「甲陽の間」に移して懇親会。45回の坂上和夫さん率いる「レオマカナ」のフラミュージックを楽しみながらのパーティーとなりました。

当日の参加者は213名でした。とくにホームカミング学年の45回生が多数参加してくださいました。

3 甲陽ファンド奨学金

本格的にファンド委員会が発足してから10年目、在校生への支給を始めてから9年目を迎えます。

募金活動は平成17年度から開始し、皆様のご協力によりこれまで9年半で約6133万円の醸金が集まりました。平成25年度の醸金額は約240万円でしたが、平成26年度は前期(4月から10月まで)ですでに約280万円と昨年度一年分を上回るペースで募金が集まっております。

在校生への給付実績は、平成18年度から平成26年度まで延べ69名に、年間20万円を支給してきました。

現在のファンド残高は平成26年10月末で約4750万円となっています。

4 第二回会員交流会

同窓会活動の活性化のため夏の会員総会以外にも会員相互の交流と親睦を図るようなイベントを企画してはどうかとの意図で始まった会員交流会ですが、その第二回が平成26年11月22日に行われました。(P.14参照)

5 同窓会会員名簿の発行について

会員名簿の編集・発行について、昨年4月の役員総会にて母校創立百周年(2017年)記念事業の一環として会員名簿を発行することが決まりましたが、この度は、①制作委託会社として株式会社サラトに委託する方針、②掲載項目としては、個人情報保護法を遵守する、氏名については全員掲載、本人から掲載不可の申し出があったものを不掲載とする、最終出身校については廃止する、③運営体制として同窓会名簿編集委員会を組織し同窓会の全役員・有志で名簿編集、広告募集の活動を行う、④発行スケジュールは、平成28年2月に予備調査を開始、平成29年2月発行を目標とする、という方向性が示されました。

終身会費納付額設定表(平成27年3月31日まで)

95回~89回	30,000円	75回	37,000円	61回	23,000円
88回	50,000円	74回	36,000円	60回	22,000円
87回	49,000円	73回	35,000円	59回	21,000円
86回	48,000円	72回	34,000円	58回	20,000円
85回	47,000円	71回	33,000円	57回	19,000円
84回	46,000円	70回	32,000円	56回	18,000円
83回	45,000円	69回	31,000円	55回	17,000円
82回	44,000円	68回	30,000円	54回	16,000円
81回	43,000円	67回	29,000円	53回	15,000円
80回	42,000円	66回	28,000円	52回	14,000円
79回	41,000円	65回	27,000円	51回	13,000円
78回	40,000円	64回	26,000円	50回	12,000円
77回	39,000円	63回	25,000円	49回	11,000円
76回	38,000円	62回	24,000円	48回~	10,000円

終身会費納付額設定表(平成27年4月1日~平成28年3月31日まで)

96回~90回	30,000円	76回	37,000円	62回	23,000円
89回	50,000円	75回	36,000円	61回	22,000円
88回	49,000円	74回	35,000円	60回	21,000円
87回	48,000円	73回	34,000円	59回	20,000円
86回	47,000円	72回	33,000円	58回	19,000円
85回	46,000円	71回	32,000円	57回	18,000円
84回	45,000円	70回	31,000円	56回	17,000円
83回	44,000円	69回	30,000円	55回	16,000円
82回	43,000円	68回	29,000円	54回	15,000円
81回	42,000円	67回	28,000円	53回	14,000円
80回	41,000円	66回	27,000円	52回	13,000円
79回	40,000円	65回	26,000円	51回	12,000円
78回	39,000円	64回	25,000円	50回	11,000円
77回	38,000円	63回	24,000円	49回~	10,000円

甲陽ファンドにご協力を

平成17年度から募金活動を始めた甲陽ファンドは、すでに募金総額が6100万円を超え、この間延べ69名の母校在校生に奨学金（年額20万円）が支給されてきました。昨今の社会情勢から母校の後輩たちを取り巻く経済環境は決して良好とばかりは言えず、同窓会の奨学金は、間違いなく母校と在校生にとって有意義なものであります。

一方前号でもご報告いたしました、経済困窮者への奨学金とは別に、母校在校生中に学業やスポーツなどの課外活動で素晴らしい成果をおさめた後輩に同窓会から賞品を贈呈しようということで、今年度は、昨年春に卒業した95回生の中から在校生中に日本化学会の化学グランプリで金賞を受賞した阿知波亮君に図書カード（3万円分）を贈りました。

同窓生の皆様には、引き続き甲陽ファンドへの募金をどうぞよろしく願いいたします。

平成26年6月1日から12月31日までにファンドに募金くださいました方々のご芳名を以下に掲載いたします（敬称略）。まことにありがとうございます。（平成26年5月31日以前に募金された方は73号～90号に掲載しております。）

17回 宮 本 茂	44回 木 村 正 昭	54回 植 田 和 孝	69回 清 水 洋 祐
19回 石 井 賢 治	44回 米 井 克 夫	55回 塩 谷 圭 一	70回 中 村 大 輔
20回 石 津 金 二 郎	44回 内 藤 誠 二 郎	55回 浜 川 一 郎	72回 小 北 隆 夫
27回 光 野 昭	44回 野 条 良 彰	56回 大 野 順 弘	74回 小 徳 岡 俊 治
31回 黄 楊 荒 雄	44回 水 野 博 視	57回 岩 田 圭 一	75回 奥 村 安 史
31回 富 士 川 真 二 郎	45回 揚 野 寛	57回 白 尾 誠 一 二	75回 辛 島 理 人
33回 森 下 哲 志	45回 石 原 浩 行	57回 中 村 卓 司	75回 木 村 尚 史
33回 若 田 雄 太 郎	45回 小 林 智 夫	57回 藤 見 忠 生	75回 関 向 大 介
34回 江 隈 一 夫	45回 白 井 徹 央	59回 小 川 敬 雄	76回 甲 斐 明 彦
35回 尾 山 啓 二 士	50回 岩 朝 邦 彦	59回 柴 田 良 平	76回 向 井 啓 治
36回 中 田 俊 士	51回 内 田 邦 友	60回 中 山 裕 夫	77回 安 藤 伶 郎
38回 江 壽 健 一 郎	51回 近 藤 真 章	60回 藤 岡 由 夫	79回 廣 瀬 史 郎
38回 東 川 昇 彦	51回 横 田 真 彰	61回 岸 清 彦	81回 山 脇 敬 博
38回 吉 本 文 彦	52回 土 居 真 章	62回 長 宅 芳 男	82回 山 本 祐 己
38回 三 木 則 夫	52回 飛 田 圭 吾	62回 望 月 邦 三	45回 同 窓 生
39回 加 輪 上 敏 彦	53回 友 田 圭 司	62回 吉 岡 泰 彦	
41回 橋 本 恒 久	54回 寺 澤 和 彦	68回 森 健 亮	
42回 宮 崎 恒 彰	54回 中 野 茂	69回 大 津 雅 亮	

【募金方法】

- (1) 同封の振込用紙を利用し、通信欄にファンドへの募金の旨を明記して、郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み下さるか、
 - (2) 三菱東京UFJ銀行芦屋支店 普通口座3998990 口座名義 甲陽学院同窓会奨学金ファンド にお振り込み下さい。
- (2)の場合、振込人の卒業回生が分かるようにお願いします。

☆「会報・甲陽だより」の原稿募集☆

- *次号・第92号は、本年7月末頃に発行を予定しています。
- *「会員だより（同期会・クラス会）」・「運動部・文化部のOB会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。
- *原稿の締切日は、本年6月10日です。

☆新卒者の終身会費制度☆

今年高校を卒業した96回生の皆さんは、卒業時点で終身会費を納めることを選択できます。その方法については、後日別途ご案内いたします。

また、これに伴い、卒業後7年以内の方（卒業時に7年分の年会費を前納）でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになっています。その際の金額はP.2の表をご覧ください。

☆甲陽学院カレンダー☆

母校の四季を写した2015年用の美しいカレンダー（月めくり・500円）を学校で販売しています。詳しくは学校HPをご覧ください。

☆お詫び☆

甲陽だより本号の発行が予定より大幅に遅れましたことをお詫び申し上げます。

会報編集委員一同

中学校 同窓生講演会

最近のロボット事情と甲陽生に望むこと
独立行政法人情報通信研究機構 橋本安弘氏(55回)

2014年11月20日(木)、中学校講堂で恒例の同窓生講演会が開催されました。講師の橋本安弘氏は、現在日立製作所から表記の機構に出向中で、特許などの知的財産創出や社会実装の推進を担当されています。



日本人はロボット開発をめざす人が多い。それはロボットに対する特別な思いがあるからではないか。「鉄腕アトム」や「ドラえもん」を例とした説明には大いに納得できる点がありました。

次に世界で活躍している様々なロボット(軍事用・災害用など)を紹介されました。また、日本で活躍している人型ロボットについて説明されました。

後半は、海外の大学に進学して活躍されている息子さんの例を引きながら、次の3つのことを甲陽生への要望とされました。

- ①好奇心と探究心を常に持ってください。
- ②感謝の人間関係を築いてください。
- ③そして世界に羽ばたいてください。

本日の講演は、中学生たちが将来のことを考える上で非常に大きな示唆を与えてくれたに違いありません。そして、将来、本当に「鉄腕アトム」が誕生する日が来るかもしれません。(森口 匡 記)

高等学校 同窓生講演会

「在野という生き方」

横山慶一氏(74回)

昨年11月27日(木)の放課後、甲陽学院高等学校視聴覚教室において同窓生講演会が行われました。講師にお招きした横山慶一氏は1993年に甲陽学院高等学校を卒業後、京都大学総合人間学部にて一期生として入学、その後京都大学大学院人間・環境研究学科に進まれ、スポーツ科学を専門とされながら京都府立医科大学の研究員などを経て2014年からは現職のNPO法人元気アップAGEプロジェクトの理事長として、京都府亀岡市を中心に運動による介護予防の普及に取り組まれています。講演では経歴紹介をしながら高齢者の健康に関する研究の道へ進んだきっかけや、ご自身がユーラシア大陸をバイクで単独横断された経験を通して、海外に飛び出すことは決して難しくはないこと、絶対の正義は存在せず、善人悪人だけの国はないことなどを各国でのエピソード



を交えながら語られました。夢を叶えるためには①口に出し続けること②人とつながること③体を鍛えること④人生は楽しいと信じること、が大切であるというメッセージは生徒達の心に強く刻まれたのではないかと思います。講演の最後の「あなたが行動を共にしたい人にあなたがなってください」という言葉が印象に残りました。

(溝口貴浩 記)

進路講演会

“Chasing the Red Dragon”～中国政治研究への挑戦～
関西学院大学国際学部教授 三宅康之氏(69回)

昨年6月13日(金)の放課後、甲陽学院高等学校視聴覚教室において進路講演会が行われました。講師にお招きした三宅康之氏は1988年に甲陽学院高等学校を卒業後、京都大学法学部・同大学院に学びました。



その後、京都大学法学部助手、愛知県立大学准教授を経て、2011年から関西学院大学国際学部教授に就かれています。主著に『中国・改革開放の政治経済学』(大平正芳記念賞)。アメリカ留学と香港総領事館勤務の経験を生かし、独自の視点から中国の政治外交分析を試みておられます。

講演では、①中国問題と中国政治研究の問題点、②自分はどうして中国研究者になったか、③今の時代に大学で学ぶということ、の3点について話されました。

①では、40年来で最悪と言われる日中関係の現在について、その原因を歴史的に振り返って整理されました。すなわち、アヘン戦争以来、日本が相対的に衰退し、中国が相対的に興隆する局面は初めてであるという点です。

②では、甲陽在学中からの読書・映画三昧の日々、大学時代の米国長期滞在経験と甲陽同期4人での中国一周旅行などを経て、中国研究者になっていく道のりを語られました。

③では、「失われた20年」を経た最近の大学教育のいいところ、悪いところを整理された後、大学で学ぶことは最先端であるがゆえに時代が変われば役に立たなくなることも多い。だからこそ直接には「役に立たない」歴史・哲学・古典が重要である。大学は「学び方」を学ぶ場である。アンテナを広げ可能性を拡げよう。美的センスを磨き、美術・音楽・風景・詩句など美しいと思えるものをキャッチし、心を満たせるようにすることが大切である。など、高校生への貴重なアドバイスをいただきました。

(今西 昭 記)

リレーエッセー

甲陽学院の思い出

北橋 健治 (52回)



昭和46年春、甲子園にあった母校の卒業式、阪神電車から眺めたキャンパスは今でも目に焼き付いています。母校とご縁は、公立中学1年の3学期、甲陽中学の転入試験があるのを知り、受験。幸い4人の合格者の中に入り、中学2年から、甲陽学院の生徒になりました。白

い風呂敷が実に印象的で、阪急電車の駅からの通学は、いい運動でした。一度、遅刻して大目玉を食らったことも。しつけが厳しいことは名門校の証だと、社会人になってしみじみ思います。

教科書は、公立より1年近く早くすすんでおり、チンブンカンブンだった英語の授業にはうろたえましたが、親が家庭教師をつけてくれ、自分の学力にあった伴走者のサポートで追いつきました。昨年、北九州市は学力向上の一環として、ひまわり放課後学習塾をスタートしましたが、全員で受ける授業とは別に、能力に応じた学習機会は、自分の場合も重要なチャンスとなっています。英語の安福先生はクラス担任で、高校卒業までご指導いただいた恩師です。

音楽は、池尻先生のピアノ伴奏で歌うのが試験で、のど自慢のように途中でハイそれまで〜成績はいつもビリでした。教会のオルガンや賛美歌に縁遠い日本人には、楽典よりも楽器を奨励し、音楽の楽しさを体感させることが大切のように感じます。北九州市は、これから音楽家のアウトリーチ事業に力を入れる方針です。

授業中、教室の後ろに立たされたことが一度あります。国語の北村先生、古典の時間でした。階はきざはしと読む、とのくんだり、うつらうつらしていた私は、てっきり、自分が呼ばれたと思い、ハイと応えてしまって、先生に即刻見抜かれました。国語をもっと真剣に勉強しておけば、と悔やみながら、今、文学の街の発信に力をいれています。

転入後、がむしゃらに追いつくのが日課、当初はクラブ活動に入る余裕もなく、ストレスがたまり、思い切りスポーツに打ち込みたい、そんな時出会ったのが卓球でした。昼休みに皆が卓球台に殺到するので、早弁を始めます。3時間目が終わると、こっそり10分間で食べるのです。昼休みになると卓球台に直行する日々も、安福先生に早弁の現場を押さえられ、仕切り直し。とにかく面白い、強くなりたい一心で、親を説得して卓球部に入部、ペンホルダー、ドライブ、純日本式のスタイル、自主トレでひたすら走り、素振りに明け暮れる毎日。練習の後飲んだ冷たい牛乳の爽快な味は忘れられません。中学3年の時、西宮市で甲陽学院は、個人、団体とも優勝。内藤君、杉原君の良きチームメイトのおかげで、幸運にも個人で優勝し、卓球部長の安福先生に褒めてもらいました。

ある日、卓球への魅力が急減します。中国の前陣速攻

に日本勢がまさかの惨敗。しかも文化大革命で中国のएस宋氏は投獄、処刑されたとの噂。のちの三島自決事件よりショックでした。宋の消息を知るのはだいぶあと。赦免され、日本人女性と結婚、地方で卓球指導者として活躍しているテレビ番組。彼の顔を見て、懐かしく、思わず涙が出てきました。中学時代の青春は、卓球でした。

甲子園の高校キャンパスへ。クラブは、森際キャプテンに出会い、ESS（英会話）クラブに。タッチフットボールで身体を鍛え、日本一の関学アメフットチームと夏休みの合同トレーニング、夜は、電信柱めがけてタックル。大徳寺での修行、阪神ESSユニオンで私立学校の高校生との交流など、まさに文武両道の充実した日々で、青春の舞台はESS一色でした。

クラシック音楽は縁遠い存在でした。しかし、あることをきっかけに、音楽なしでは生きていけぬようになります。高校2年のとき全共闘の運動がキャンパスを席巻、友達のすすめで私は、ノンポリ派の代表として生徒会長に立候補。12クラスで昼休みに立会演説をしてまわり、当選、生まれて初めての選挙運動です。その時の参謀役の木村君は、新日鉄で活躍し、30代の若さで急逝されました。高炉休止後の総選挙を心配し、病院を抜け出して議員会館に私を訪ね、激励してくれたのです。私にはもったいない心優しい友人でした。

校則の自由化問題で揺れるキャンパス。規則の遵守を励行する立場の私は、学生運動のグループと対立緊張関係に陥ります。全校集会で自己批判を迫られたことも。連日、悩み、学校で高熱のため倒れ、2ヶ月もの入院生活。高校3年の夏でした。9月にやっと復学したものの、受験を控え、うつろな日々をおくります。その頃、音楽室でベートーベンの運命を聴き感動しました。その日から、音楽は、心の友になり、年を取るにつれ、好きな作曲家は、シューマン、モーツァルト、ショパンと続きます。ところで、同窓会でかつての全共闘シンパの何人かに会いましたが、お互い懐かしい青春時代の思い出になっていました。

ご縁あって、北九州市での衆議院議員6期、市長3期目の政治活動は、今年30年目に入ります。社会人になって、母校の素晴らしさをあらためて感じています。地元の高校が甲子園に出ると、応援に出かけ、電車からキャンパス跡が見えると、高校生の頃を思い出します。震災後、風光明媚な新校舎を訪問した時、数学の山田先生、柔道の静先生にお会いでき、大変嬉しく思いました。敬愛する恩師、よき友人に恵まれた母校の発展を願ってやみません。甲陽学院の卒業生であることを誇りに思う昨今です。

北橋健治(きたはしけんじ)

甲陽学院・東大法学部卒業後、民社党に就職。その後、衆議院議員を経て、北九州市長

会員だより



もと教諭・同窓生(17回)：宮本 茂 後輩につたえたい甲陽の歴史



はじめに一以下は、甲陽 OB の大先輩で甲陽の教諭として後輩の薫陶に生涯をささげられいまもご健在の宮本茂先生が 2010 年 7 月 11 日、ノボテル甲子園でなされた標記のご講話に、先生のご了承を得て、その後若干の有志が伺ったお話の一部等々も加えてまとめさせていただいたものです。文責は 34 回生有志にあります。

一以下は先生のご略歴です。1938 年(昭和 13 年)(旧制)甲陽中学校を経て 1941 年(昭和 16 年)駒沢大学高等師範部地理歴史科卒。地理歴史科の教員免許取得のち現西宮市立高校の教諭を経て 1949 年(昭和 24 年)甲陽学院の社会科教諭に就任なさいました。1984 年(昭和 63 年)に定年退職後も、県立西宮高校、神戸女学院高校、県立東須磨高校などで講師をつとめ生涯教育者を貫かれました。

甲陽の個性はどこにあるか？

きょうは「新制度の中学生」として香栢園浜の校舎に入学された甲陽学院 34 回生・35 回生・36 回生の皆さんで甲陽学院のあゆみを考えようという集まりです。

わたしの語りたことはとても短時間では終わりませんので、そのごく一面を要約してお話しましょう。

わたしは 2010 年現在、90 才です。旧制度 5 年制の甲陽中学校に入学したのが昭和 8 年(1933 年)、卒業は昭和 13 年(1938 年)の 17 回生です。わが甲陽の歴史について、今日は堅苦しい話は抜きにして、具体的に事実をのべます。

甲陽という学校の歴史とはまず他校とどのように異なるか、ということです。そうすると、ひとつの学校が浮かびあがってくるのです。

それは神戸一中(旧制 5 年生中学)です。以下 K 中学と呼ぶことにします(現在は神戸高校です)。当時は他の中学も、ほとんど K 中学をまねたような、似たようなあり方でしたから、K 中学は当時の兵庫県教育界にじつに大きな影響を及ぼしていたのです。中学のあり方を決めていた、といっていいいくらいです。

この K 中学と甲陽学院中学のふたつがどちらがったか、をのべましょう。

昭和 3 年ごろ、私の身近な親戚に K 中学の 5 年生がいました。学校から帰宅したのをみると、服装は色も形も軍隊そっくりです。夏服も冬服も同じで区別なし。そして足の膝から下には、ゲートル(巻脚絆)という 15 cm 幅くらいの細長い布を巻きつけています。歩行を軽くするのですが、血行を妨げるなど育ち盛りの青少年の発育には決してよいものではありません。そして靴は重い編み上げ靴です。まるで兵隊のようでした。

そして K 中学の昼食です。生徒全員が校庭に出て、

一年中、校庭で立ったまま食事をするのです。それも弁当はご飯の真ん中に梅干し一個を埋めただけの「日の丸弁当」と定められていました。「ぜいたくを斥け節約を旨とする軍国日本の精神にふさわしい」と世にもてはやされました。

やっこの中学を出たかれは旧制の高等商業を終え会社勤めをしていましたが、太平洋戦争がおこると昭和 17 年、臨時召集という名のもとに、きびしい軍事訓練にさらされました。帰宅後、倒れこんで高熱がつづきました。診断では、発育盛りの中学 5 年間に体を痛め体力が大きく低下していたというのです。かれは弱冠 31 才で遂に死亡してしまいました。

もう一人の親戚の少年は、少しあとの昭和 5 年に甲陽中学に受験して無事合格しました。小学校時代には体が少し弱くぜんそくもあり、体操の時間は見学するなどしていた少年でした。ところが甲陽に入学したあとは、身長も 1 年間に 5～10 cm ものび、制服も夏、冬ごとに買い替えなければならぬほどでした。それほど健全な体格になりました。甲陽ののびのびとした教育に適合したのでしょうか。身長は 185 cm にもなり、元気に卒業して後年のきびしい軍務も無事終わりました。

そこには以下にふれるような、甲陽に用意されていたすばらしい環境もおおいにあずかって力があつたにちがひありません。

ちなみに、この昭和 5 年ごろの甲陽学院は、野球部の黄金時代でもありました。布谷という名選手がいて、春の選抜大会でベスト 4 まで進みました。その戦いぶりが「まことにフェアでさわやかだ」というので、当時の中学野球のモデル校として特別表彰を受けました。(ことわるまでもありませんが、甲陽中学は大正 12 年、1923 年に夏の全国中学野球大会 9 回大会に初参加して一気に初優勝をとげた輝かしい歴史をもっていますが、優勝チームもふくめ何人もの野球部 OB も太平洋戦争で帰らぬ人となりました。)

それやこれやで甲陽の人気は高く、志願者は 1200 人余り、合格したのが 250 人ですから 5 倍の競争率です。当時の甲陽中学の名はいやが上にもとどろいていました。

わたしはその 3 年後に入学しました。わたしのみた当時の甲陽を紹介しましょう。

鉄筋作りの大校舎本館のほか別館の大食堂がありました。そんなりっぱな食堂をそなえた中学校は阪神間には皆無だったはずですが。全国でもめずらしかったのではないかとおもいます。

その食堂ではプロの料理人が経営をまかされ、腕をふるってすばらしい味のごちそうが出されていました。カレーライスやハヤシライスのほか、当時から「日替わりランチ」まで用意されていて、あたたかいごちそうが希望者に提供される、という別天地でした。

服装も軍隊色ではなく上品な枯草色です。夏服とは別の厚地の服装もあり、希望者はオーバーも制定されていて着用できました。勿論ゲートルなどは巻きません。靴は黒の普通の紳士靴でありました。

このように甲陽生には心身共に青少年期の発育に配慮された、すぐれた、ゆたかな環境が用意されていたのです。

学祖・伊賀駒吉郎先生 一時代に流されぬ「自治」の精神

上述のような、ゆたかな環境＝容れ物は、創立者伊賀駒吉郎先生の教育方針から由来していました。

先生は明治2年(1869年)香川県生まれ。東京哲学館(後の東洋大学)を出られ、根が哲学者ですから、考えぬいて「あるべき教育哲学」を生み出された教育開拓者というべき人です。

したがって当時のK中学のあり方にきびしい批判精神をもってのぞまれ、これを補正するため、自分で学校を創られました。これが甲陽中学の原点です。

それは兵庫県の教育のあり方に強烈に対抗する存在でもありました。ここに甲陽学院の創立という歴史がはじまるのです。甲陽学院というのは、はじめから「ただの私学」ではなかったのです。

その意味で、兵庫県の教育に対する警鐘をならす学校でありました。ですから非常に注目を浴びました。

とうぜんながら、わたしの在学する昭和10年前後でも、共鳴する人ばかりではありません。なにしろ「官立様さま」の時代です。兵庫県切つてのエリート県立中学・K中学をもってよしとする世評があり、それに対立するのですから批判にはこと欠きませんでした。

わたしが通学する阪神電車の中でも、時として乗客からこんな言葉が飛んできました。「生徒のくせにオーバーを着るとは、ぜいたくな!!」「そんな大人みたいな靴をはいてなんとぜいたくな!!」と。

そして鞆も注目のまどでした。当時は肩から斜めにかける鞆が普通でしたが、姿勢が片寄るきらいがあるので、甲陽では手提げ鞆が制定されました。これならば両手で自由に持ち替えることができ、背骨の歪曲するおそれもない。このように、万事を伊賀先生は十分考えられたのです。

そしてなにより、わたしが甲陽時代に身につけたことは「自治の精神」です。当時はそのような校訓は全国でもまれであったかもしれません。

伊賀先生は、「自分で自分の身を治めよ」と主張され、少年期のわたしどもにじぶんの真の姿を考えさせ、各自が自治の精神をわが身に浸透させるよう、諄々と説かれました。伊賀先生は昭和15年に退職されましたが、第2代小林岩助校長も第3代校長も伊賀先生のあり方を継承されました。このような甲陽学院のすぐれた校風はしだいに世に認められ、阪神間は勿論、遠くからも志願する生徒が多くなりました。

軍国主義の圧力ひとしお

ところがながびく日中戦争につづいて昭和16年、日本政府は太平洋戦争に踏み切り、戦局がきびしくなりました。

わが甲陽は自由な雰囲気を持った学校ですから、とうぜん当時の軍事色の濃い世の風潮にそぐわない面があります。いかに自由と自治を大切にする学校でも、軍によるきびしい国家指令はどうしても無視できない時代がつづくのです。自由にのびのびとした教育を身上とする甲陽学院にとっては、実に暗黒時代でありました。

くわしく立ち入ることは控えますが、単なる私学ではなく、軍国教育に抗する「リベラルなオアシス」であっただけに、軍が送り込んできて生徒に軍事教練をする「配属将校」の学校や生徒にたいする態度にも、軍に志願するようにとの圧力にも、他校にたいする場合とちがった、きびしいものがあつたといわれます。

そのことが、戦後復員してきた一部の職員やもと生徒のところにひとときわ荒んだおもいをかき立てたといわれます。

昭和20年敗戦……。甲子園の甲陽学院の校舎が悲惨な姿になっていました。戦時中、校舎全体が軍に使用され、屋上に高射砲陣地が築かれて、あの立派な校舎は軍の拠点となって荒れ果て見るかげもなくなったまま、学校に返されました。

そしてそのころ、甲陽にとって、なおつらい大事件が起こりました。昭和21年夏の野球大会予選で、甲陽の野球監督が、球審のあまりにも不公平なジャッジに憤慨して殴打事件をおこしたのです。そのため1年間、甲陽野球部は出場停止になりました。残念なことに学校の名声は地におちました。この時の話は、学校経営者である辰馬吉男第2代辰馬育英会会長から直接くわしく聴きました。いかに無念残念であつたかが偲べれます。

新制甲陽中の誕生

会長は心労を重ね思案のあげく、「何とか新しい学校をつくろう」と決意されました。それは昭和22年からはじまる新制度の中学生を香榊園の校舎に迎え入れて、新規まきなおして「真の甲陽生らしい生徒」を育てよとの構想でありました。

そのさい会長は、甲陽にはひとときわきびしかった戦時の暗黒時代とその後遺症を引きづっている人材を思い切って「整理」し、あたらしい革袋にふさわしい、あたらしい人材を多数招いて新制度をスタートする、という画期的な決断をくだされました。その一部だけでもご紹介しておきましょう。

新校長はもと神戸経済大(神戸大経済学部の前身)教授の丸谷喜市先生です。石川啄木の親友として、丸谷緑野のペンネームですぐれた詩歌ものこしておられます。

数学、国語などでは名門大学の大学院レベルの新鋭をリクルートされました。のちに校長になられた数学の小川先生も、そのおひとりです。

英語では、会長は恩師の関西学院教授の芥川潤先生を招かれました。先生が丸谷先生のあと校長になられたことはご存じのとうりですが、NHKが戦前にラジオ英語講座をはじめたときの「初代講師」が芥川先生でした。ひびきのよいバリトンにのった米国エモリー大学仕込みの美しい発音に担当者がほれこんで講師をお願いした、といわれます。

そして図画の担当者がのちに独自の画風をうちたて大成された須田剋太画伯でした。志賀直哉に愛され司馬遼太郎の『街道を行く』ではこよなきパートナーとしてユニークな手法の挿画によって読者を魅了されました。

音楽を担当された若き花輪洋先生は東京芸大を出たばかりの清新な歌手で、甲陽の先生になられるとともに、戦後はじめてという大阪・中之島公会堂での歌劇「カル

メン」上演では主役のホセを演じて絶賛されました。

甲陽中学校の校歌「われら」には、まさにこの輝かしい再出発の時代にこめられたおもいがあざやかに詠いあげられています。

「かぎりなき ときのながれの かがよえる このひとときを あいみる われら」で始まる香り高い作詞は、ほかならぬ丸谷緑野先生、作曲は「われらのドン・ホセ」花輪洋先生なのです。

こうしたすぐれた先生方のもとへ入学してきたのが34回生でした。

そして生徒たちが中学3年になったころ、会長は「この中学生を高校の3年間、しっかり仕込んで世間の驚くほどよい大学におおぜい行かせたい、しっかり頼むぞ」と、若い教員である私にも、奮起を促されたのであります。私も会長の熱意にこたえて「私の母校です。全職員で励みます」と答えたものです。

こうして34回生の全員で90人余り（1クラス30人が3クラス）の諸君に高校の3年間に成長して名門大学へ進んでほしい、と熱望しましたが、まだ進学の資料も乏しい中でしたので、各種模擬試験等の資料を集め、さまざまな角度から検討したものです。

そうしたなかで新制中学校出身でははじめてH.K.君が東大に挑戦するときめ、友人のS.H.君を誘って二人が受験することになりました。京大をはじめとする関西の名門大学にならんでこの初挑戦は、34回生を希望のところへ多く合格させたいとのわたしたちの意気のシンボルにもなりました。

そして昭和28年3月20日だったと記憶しますが、高校職員室の黒板に大きく「第1次東大合格者」として両君の名前が書きだされているのを見たときのうれしさは、57年後の今もよく覚えています。

「ああこれで甲陽は立ちあがれる、甲陽の新しい歴史がはじまったのだ」と実感しました。90名余の諸君は希望する大学へぞくぞくと合格して世の人々の目をみはらせました。次年度の35回生からもA.T.君、U.S.君が赤門入りし、36回生もF.S.君らそうそうたるメンバーがさらに大奮闘してくれましたので進学の成果が上がり、今日の甲陽学院の基礎が築かれたといえます。

それ以後も有力大学へぞくぞくと合格できるようになり大学合格率抜群となりました。ここ数年は卒業生も毎年200名をこえ、東京芸術大学などにすすんで芸術分野で特技を発揮する諸君もあります。

大学を終えて実業界で活躍するうち甲陽高校の卒業生とわかって一段と絆を深めている方たちのニュースも日増しにおおく耳にします。

中学、高校で身につけた甲陽精神を大いに発揮して学界、公務員の世界、ジャーナリズムなど、各界で活躍される後輩がいまや輩出されるようになりました。

そうした最近の甲陽の発展の歴史をひもとくにつけ、戦後では34回生、35回生、36回生のあなた方の奮闘が甲陽再生の転機になっていることにおもい至ります。何とありがたい、うれしいことでしょう。

建学の初心をわすれることなく甲陽学院にますますの栄光あれ、と祈りつつ話を終わります。

(文責：34回生有志)

42回 三六会 同窓会報告

さる平成26年12月5日大阪駅近くのガーデンシティ OSAKAにて同窓会を開催しました。年末を控え皆さん忙しい中なので不参加者が多いのではと懸念していましたが、28名の同窓生が駆けつけてくれました。また、中学時代の恩師中川経治先生もわざわざ東京から来て下さり、会に花を添えて下さいました。

当日までシークレットのサプライズゲストとしてお迎えした阪神タイガースOB会長でテレビでおなじみの川藤幸三さんも開会時からご参加され、会をより一層盛り上げていただきました。

当初今回の会は卒業後経過年や実年齢も記念すべき事がないので、“ワイワイガヤガヤと忘年を楽しむ会”として企画しましたが、中川先生が本年7月数え年で米寿を迎えられた由お聞きし、“中川経治先生の米寿をお祝いする会”に変更して開催しました。

前回以降逝去された同窓生への黙とうで始まり、中川先生から中学時代の教師並びにクラスの担任になられたいきさつや近況報告のお話があり、同窓の宮崎恒彰君の中川先生への米寿のお祝いの弁があり、続く乾杯の音頭で開宴となりました。

今回は飲み放題、ビュッフェ形式で好きなところに着席して歓談する形式を採用しましたので比較的落ち着いて食事、歓談をすることができたようです。

会の中盤、本日のゲスト川藤幸三さんから、“今年のタイガースを振り返って”というテーマでお話をいただきましたが、続く質問コーナーのやりとりで会場はより一層ヒートアップし、最高の盛り上がりを見ました。

この紙面で内容の詳細を報告することはできませんが、“日本シリーズ決勝での結果がすべてを物語っている”との事が印象的でした。

今回は2年後。再会を期してお互い肩を組み校歌、応援歌を斉唱し、滞りなく会が終了しました。

例年集合写真は会終了間際にとっているのですが、赤い顔やらしまりない顔になっている事が多いので今回は会の開始時点でとりました。

ゲストの川藤さんも入っていただきましたが、遅れて会に出席された井上清君が残念にも写真に写っていないのが唯一心残りでした。

(報告者 三六会 事務局担当 大野忠雄)



48回 学年同窓会

去る7月26日(土)16時～18時頃に阪急梅田の17番街「シーファー」にて恒例の48回卒業学年同窓会を開きました。初参加や遠来のメンバーも加わり、参加者は静先生を含めて32名でした。

冒頭、進行役の大塚さんよりこの1年では亡くなった仲間がいないことが報告され一同胸をなでおろすと共に、改めてこれまでに亡くなられた12名の仲間のご冥福を祈って、1分間の黙祷を捧げました。(居谷、福井、岡上、森口、藤田、坂本、本木、鈴木、広沢、横内、若池、苗村の各氏)

続いて、緒方さんの「10年後、20年後もこのように皆元気で集まろう！」の音頭により乾杯を行い、会はスタート。各テーブル毎にこの1年の出来事や今後の身の振り方などに話の花が咲きました。

そして皆さんの経ってのご要望にお応えして今回お招きした我らがアニキ「静先生」より？回目かの年男としてのお元気な活動や最近の甲陽の話題などをご披露戴き、続いて恒例のクラス単位の近況報告がA組→B組→C組→D組の順に行われました。ゴルフ・テニスに大忙しのX君、地域のスポーツ団体の役員を勤めるY君、青春に戻ってドラムを習い始めたZ君、残務感を解消するべく司法試験予備試験にトライするP君、まだまだ仕事にやる気満々のQ君とみなそれぞれの生活をそれなりに楽しく報告し合いました。

最後に昨年オープンしたグランフロントの3つの高層ビルをバックに全員写真を撮り、来年の再会と3年後の卒業50年のホームカミングでの大集合を約してお開き。また来年元気で会いましょう。

追伸：48回卒は3年後の2017年8月の最終土曜日に行われる全体同窓会に卒業50年の学年としてホームカミングにあたります。丁度学院創立100周年にもあたりますので是非大勢で参加したいと思っています。現在、メルアド把握は100名余りです。学年同窓会のメール案内が来ない方は山崎又は池田まで連絡してください。

“山崎：kanamai2000@yahoo.co.jp、池田：sk.ikeda@smile.ocn.ne.jp”

なお、学年同窓会は毎年7月の第4土曜日16時から17番街の「シーファー」で行っています。また、東京でも昨年4月にクラスを超えた同窓会を開いています。幹事は小島君・土岐君です。またゴルフ会も年2回(5月と10月)行っており、幹事は伊賀君です。最後に静先生の次回カントリーコンサートは12月21日(日)15時頃～ライブハウス「フォートワース」入場料3千円(予定)です。皆で押しかけよう。

今回の出席者

A組：天田 池田 片野 熊崎 夏住 棟広 米良
森田 吉田

B組：有本 緒方 上農 丹家 山崎 米北

C組：龜山 池内 大塚 大谷 木村 土井 浮田
松尾 宗

D組：伊賀 伊藤 植田 下田 藤木 安間 山元
静先生 計 32名

(幹事：A池田、B山崎、C大塚、D伊賀)

文責：48回理事 池田収一



51回 C組同窓会

51回卒業C組の同窓会を、2014年12月20日(土)長崎県伊王島にて開催しました。遠方にも関わらず、中島博先生の御参加をいただき、終始なごやかに楽しい時を過ごすことができました。参加者は写真右から、木下、長瀬、植松、松宮、神戸、早瀬、井上、中島博先生、早崎、浅野、横山、森本の12名です。



甲陽学院の思い出

元教員 小田 剛 (国語科)

今を去る四十三年前の大学院一年生の頃、下教授より声がかかって、年度途中より、中学二年生に週二時間、徒然草と古典文法を各一時間ずつ教えることとなった。「小学校が一番が灘中、クラスが一番が甲陽へ行く」といわれ、高校卒業生の半分近くが、東大か京大へ行く(浪人も含めて)時代だった。今は医学部が超人気という。中二の彼らは、実にまじめに勉強してくれて、そのせいか、こちら初めての授業ということで、よく予習をしていった。優秀な素質の人間を正しい方法で、よく鍛えれば、十二分に効果・結果が出るということは、スポーツ(バドミントン)と同じだと思った。村上千秋氏(村上春樹の父君)が同僚の国語教師で、いろいろ教えていただいた。それよりも、授業のやり方について「あなたの好きなようにやればいいのですよ。」の言葉が、私の肩の荷をおろしてくれた。また、ベルが鳴るや、職員室から教師(群)が、百メートルのスタートダッシュよろしく出発するのも驚きであった。

次の年は、高一の古典を教えることとなったが、今のノボテルホテルのある地が当時の高校であり、よく「甲子園が一番近くて一番遠い高校」などと噂されていたと聞く。夏の全国高校野球選手権大会では、名門広島商業などが、試合前の練習をするのを、甲陽高の球児たちは、どのような思いで見つめていたのであろうか、さぞや屈折していたにちがいない。その高校も今はなく、北の山ぞいに移ったのも時の流れであろうか。

54回 還暦記念同窓会

平成26年度中に還暦を迎えることを記念して、12月27日に白鹿クラシックスにおいて、体育や柔道の授業で大変お世話になった静利一郎先生にもご参加賜り、54回生同窓会を開催しました。

還暦でもあり、甲陽学院ゆかりの白鹿クラシックスという場所でもあり、本来ならば30～40名がせいぜいの狭い会場でしたが、幹事団の想定をはるかに上回る49名の参加を得て、身を寄せ合ってわいわいがやがや、白鹿原酒を満喫しつつ、盛大に、そして楽しく昔話や近況報告に花を咲かせることができました。

そして静先生のミニコンサートでは、先生の見事な美声とギター演奏によるカントリーソングに酔いしれた後、最後は全員で「還暦ロード」「甲陽ロード」ならぬ「カントリーロード」を歌い、大いに盛り上がりました。

還暦を過ぎても健康を保ち、次回同窓会にはより多くの仲間が集えることを誓い合って、盛会のうちに同窓会は幕を閉じました。

(参加者)

来賓 静利一郎先生

- A 組 大下勝司、萩田真一郎、織田明彦、久保田尚志、坂井幸一、中村譲治、橋本通夫、肥後行人、山崎剛
- B 組 朝日隆、池野旬、岡本隆、田藤修、土井誠、中井政男、中橋俊和、中村靖、保田昌男、山村務、湯川英彦、吉井友実、芳川(渡辺)浩男
- C 組 合澤和生、赤松和彦、北村嘉雄、木下信行、下向央修、砂田一郎、竹内孝、中村豊、畑善太、林幸男、平松新、森崎孝、山本信一
- D 組 安部淳一、岡進、櫻尾洋一、岸上順一、木山佳明、齋藤直久、雑古昭彦、鷺見芳彦、高崎充弘、中村正、藤岡幸男、吉岡亨、若宮英司

幹事団 (織田、中橋、砂田、藤岡)

以上



60回 【角一会】

われわれ60回生は、昭和54年(1979年)に甲陽高校を卒業しました。高校2年までは甲子園で、高校3年は角

石町と、両方の校舎で学んだ学年です。角石町からはじめての卒業生ということで「角一会」と称しています。数年前からメーリングリストの作成を試み、現在、100名程度の同級生と連絡がとれる状態になっています。また、閲覧にはパスワードが必要ですが、ブログ (<http://koyo1979.atgj.net/>) により、情報の共有を図っています。そんな情報交換により、大阪(平成26年6月14日)、東京(平成26年6月21日)、名古屋(平成26年7月5日)の3ヶ所で、食事会を開催しました。3都市での食事会開催は、4年ぶりです。いずれの会場にも、私も60回生を、中学1年生から高校3年生まで、担任していただいた静利一郎先生にご列席いただきました。大阪22人、東京18人、名古屋4人の同級生が会しました。平成26年8月30日の会員総会で「ホームカミング学年」にあたることを再確認し、再会を誓いました。この『甲陽だより』をご覧で、メーリングリストに加わっておられない60回生の方は「koyo1979@gmail.com」までご一報下さい。

(文責 池田雅彦)



62回 同窓会

去る1月2日にノボテル甲子園において飛び入りを含め32名で62回卒同窓会を行いました。当日は山下校長にもお越しいただき、100周年事業として中学校の講堂を建て替えるお話などがございました。今回は久しぶりの参加者も多く、それぞれに現状や思い出を披露してもらい、終始笑いの絶えない楽しい会になりました。引き続いての二次会にも20名近くの参加があり、中には会社のジェット機を自ら運転し2次会に駆けつける者もあり、最後は再会を約束して散会しました。

なお、次回同期同窓会は、3年後の2018年1月2日に行う予定です。その他にも東京、大阪を中心にミニ同窓会を行っています。こうした案内をはじめ今後の連絡のために未だメールアドレスを登録していない方は、koyo@watase.infoまでご連絡をお願いします。また、ホームページ (<http://www.watase.info/koyo62/>) やFacebookでも情報交換を行っていますのでこちらもご活用ください。(渡瀬)



サッカー部OB会

9月7日甲陽学院灘校定期戦が灘校グラウンドで開催されました。

久振りによく晴れた爽やかな天候に恵まれ目を見張るような美しい人工芝のピッチでサッカーマンとしては申し分のない条件の下両校の中学生、高校生が心弾ませて開会前の準備運動を早くから始めていました。

先ず中学生の部が9時の開会式の直後始まり灘中学が巧みに加点し甲陽中学の反撃をよくかわし勝利をものにした。

続いて高校の部は甲陽高校が先取点を奪いましたが灘校の反撃に1点を返され引き分けました。

愈々の我々の出番のOB戦となり、美しい人工芝に魅せられて年を忘れて両軍の元現役バリバリの選手たちがグラウンドを昔の気持ちで頑張って走り回りました。一部現役諸君に助けられ15分ハーフを3本戦いました。東京からこのために参加された浦谷氏【49回卒】の見事なゴールもあり甲陽学院が勝利しました。しかし灘校OBの皆様の健闘は素晴らしかったと思いました。

試合後両校OB会の懇親会が行われました。今回は灘校校舎の一室で立派な会場をご用意戴き、両校OB会長の開会挨拶に続いて甲陽学院OB会長の乾杯の音頭によ

り親睦会が始まり、沢山用意戴いたオードブルをつまみながら司会者の指示で時間の制約もあり昭和25年生まれ以前の皆様が指名され、灘校OB最長老の吉田進様が皮切りに各自の思いのスピーチを戴きました。

両校OBの過去の試合の思い出話も飛び交い和気あいの内に散会と成りました。今回の懇親会は灘校側出席者24名にたいし甲陽学院側は14名でした。次回はもっと参集戴き会が盛り上がり行くように皆さんに呼びかけたいと思いました。

後記

今回、永年甲陽学院サッカー部OB会会長を務め此の灘校との定期戦を62回継続してこられた立役者の中村貞三会長が体調不良を理由に勇退され次期会長に南聰(43回卒)を指名され今回より会長を譲られました。



甲陽学院高等学校サッカー部OB会 会長就任挨拶 新会長 南 聰(43回卒)

此の度甲陽学院高等学校サッカー部OB会は、中村貞三会長が体調不良により勇退され後任会長に南聰(43回卒)が任命されました。

中村貞三氏は甲陽・灘サッカー定期戦の立ち上げに尽力され今年62回をむかえました。その間恒例の毎年1月3日の初蹴り会を始め中学・高校の現役サッカー部の側面的指導に全力を傾注してこられました。其の業績は誰にも真似のできない偉業だと心より感謝とお礼を申し上げます。

此の偉大な伝統と実績を継承すべき大任を引き受けることは誠に名誉なことではありますが心身共に重圧を感じています。

今後はOB会の結束と充実を図るため、全会員の誇り有る母校でのサッカー部で燃やした情熱を思い出し母校の現役諸君の活動に愛情の目を向け是非行事には御参加して欲しいと思います。

今、現役クラブ員の人数は中学生約60名、高校生約40名とすごい人数です。

この人達を指導されている顧問の先生の御努力に敬意をささげます。

OB会の充実こそが現役諸君の力と成り活気有るプレーに反映される事と信じています。その為には各年代の有志が自分の意思で其々の同輩に声を掛け合い誘いあって行事に参加戴き現役時代のクラブ活動では限られていた人達とお付き合いがOB会での会話の中で更にさらに大きな仲間の輪が広がって行き人生も楽しい物に成って行くと思えます。それには各自がその気に成り参加することに努力をして戴きたいと思えます。

サッカー部の縦のつながりは強く気持ちよく心が打ちとけあいます。

どうか皆さん甲陽学院高等学校サッカー部OB会が充実したサロンに成りますよう協力しあいましょう。

サッカー部 初蹴り会

新春の恒例行事、初蹴り会は平成27年1月3日10時より甲陽学院高校グラウンドにて開催されました。昨年末に亡くなられた初代OB会長殿村和祥氏(24回卒)に対して黙祷を捧げた後、新OB会長に就任された南聡氏(43回卒)の御挨拶をいただき、前OB会長中村貞三氏のお話、参加者全員での記念撮影のあと、現役選手対OB、OB対OBなどの試合が多数おこなわれ、互いに親睦を深めることができました。

今年は前日の雪による悪コンディションが心配されましたが、思いのほか好天にめぐまれ、暖かい日差しのもと、総勢約80名の御参加をいただき思う存分サッカーを楽しむことができました。来年もまた同様の日時にて開催を予定しておりますのでぜひ御参加くださいますようお願い申し上げます。(2015.01.10 森本 51回)



新OB 会長 南氏

「第三回関西甲陽ネット交流会」

第三回となった関西甲陽ネット交流会は今回も盛会のうちに終えることができた。平成26年11月29日、西村同窓会会長をはじめとする45回から現役大学生の94回まで、70名近くが会場の甲子園球場に集合。当日は朝まで雨の降る天候であったが、集合時間には晴れ間が広がり、それぞれが甲子園歴史館前へ。まずは歴史館の展示を楽しむ。館内にはタイガースや高校野球だけでなくアメフトの展示もあり、甲子園ボウルにゆかりある参加者は熱心に観覧。その後、参加者は二手に分かれて甲子園球場に入り、スタンド、ロイヤルスイートや一塁側のブルペン(室内練習場)を見学。その後、一行はスタンドの真下に位置するプレミアムラウンジにて谷本修・球場長(64回)の講演を聴き、懇親会を楽しんだ。参加者は、甲陽学院(辰馬家)と甲子園球場(阪神電鉄)の深い結びつきをあらためて認識した。球場長の講演で興味深かったのは、甲子園球場がまず何よりも「甲子園」と呼ばれる全国高校野球選手権大会のために作られ、今もそのために存在することが強調されたこと。それゆえに現在も、タイガースやプロ野球ではなく高校野球の日程を最優先にカレンダーが作られるとのこと。また、「球場長」という、おそらく全国に何十人もいないであろう聞き慣れない役職の仕事について、隣接する素戔鳴尊神社にお参りすることが日課、ビールの売り子はトップになると売上ウン万円…といった裏話も披露され、参加者からは「へー」という声漏れた。立食形式の懇談会は、球場長からその来歴が語られたカレーなどに舌鼓を打ちながら、全員が世代を超えた交流を楽しんだ。

開催に際して特別の配慮をしてくださいました谷本球場長をはじめ甲子園球場の方々にあらためて御礼申し上げます。この関西甲陽ネットの活動が母校の発展、そしてみなさまの隆盛につながればと思っております。次回の集まりは今年の初夏を予定しております。詳細は<http://kansai-koyo.net/>にてご覧ください。

<辛島理人(75回)>



第2回甲陽学院同窓会交流会： 2014年11月22日(土)開催 サントリー山崎蒸留所と京都西山秋の味覚バスツアー

昨年から新しく始まった同窓会交流会の企画第2弾は見学ツアー。11月下旬とは思えない程の陽射しと陽気のなか、学生時代の遠足気分を味わいました。

【ジャパニーズウイスキーの中にジャパニーズスピリッツを感じる】

午前9時、西村同窓会長も参加して商都交通のバスは大阪中央郵便局前を出発。最初の目的地、今話題のNHK朝の連続テレビ小説「マッサン」とも所縁の深いサントリー山崎蒸留所へ。到着時には藤井敬久工場長自らお出迎え頂き応接ホールにて同社及び山崎蒸留所の歴史やウイスキー製造工程の説明を受けました。木村俊一ジェネラルマネージャーの案内で、仕込みから発酵、蒸留まで見学コースを見て回った後、樽詰めしたウイスキーがずらりと並ぶ貯蔵蔵へ。見学後再び応接ホールに戻り、みなさんお待ちかねの試飲会。樽から取り出したブレンド前の原酒5種類をテイasting。風味や味、舌触り、喉越しなど「おー、うーん、ふむふむ」と堪能。それぞれに個性があり参加者の感想や好みも様々でしたが、ウイスキーとはこれほど美味しいものなのかと全員が感服した様子でした。今や世界でも一目置かれるようになった日本のウイスキーづくりに敬服！

【「同じ釜の飯を喰った」ことの有難さを痛感】

すっかり出来上がり満面笑顔の一行は京都西山へ。西山三山のひとつ光明寺門前の京料理「いっぽく亭」にて昼食。京造りの風情漂う広間にて、前菜を始め、順次出されるお造り、お吸い物、天麩羅など（締めは京ならではの「ちりめん山椒ご飯」）を堪能しながら日本酒やビールなどお酒も進み、いつの間にか学年、世代に関係なく座卓ごとにあちこちで話に花が咲きました。

【今年最後の紅葉を堪能】

昼食後は京都西山三山名刹の一つ善峯寺へ。駐車場から門前まで長く曲がりくねった急な坂を目にするも「腹ごなしについでにいざ参拝」と三々五々。今年最後の紅葉を愛でながら参拝する方、駐車場にて紅葉を楽しむ方などなど。甲陽OBの大先輩の方々の健脚はさすがだなと感じ入った次第です。

【また逢いましょう】

午後3時半頃、山の端に日が差し掛かる西山三山を後に、一行を乗せたバスは帰路へ。名神、阪神高速とも渋滞なく定刻より早めに大阪駅前に到着。同期から初めて知り合った方々まですっかり打ち解け「お世話になりました。有難う。ほな、また宜しく」との挨拶の音があちこちで響く中、解散となりました。今回は、ご夫婦、父娘参加もありました。
(中山裕雄 記)

お知らせ：会員交流会は、同窓会の公式行事のひとつです。ご家族友人同伴で多くの方々への参加をお待ちしています。次回企画をご期待ください。

会員交流委員会 委員長 揚野 寛(45回)

＜参加者名・卒業回＞

金山二生(32回)、尾山啓二(35回)、中村貞三(35回)、江崎健一郎(38回)、小林稔明(43回)、南聡(43回)、揚野寛(45回)、浅井信雄(45回)、石井碧八(45回)、小西省三郎(45回)、武内一彦(45回)、田中真征(45回)、中野洋三(45回)、西村貞一(45回)、越智高敏(52回)、吉井友美(54回)・理子親子、染原俊朗(60回)、土井浩平(60回)、中山裕雄(60回)・中村晃子夫婦、谷本豊(69回)の計22名



第15回 甲陽同窓会ゴルフコンペ結果報告

平成26年10月26日(日)、絶好の秋晴れのもと第15回甲陽同窓会ゴルフコンペが、武庫ノ台GC(神戸市北区)にて開催されました。午前8時30分のティーオフとともに、各組が順次スタート。皆さん和気あいあいとラウンドを楽しまれた様子でした。

ホールアウト後はクラブハウスにて、当ゴルフ会の会長も兼任頂いている西村貞一同窓会会長(45回卒)のスピーチで表彰式と懇親会の始まり。笑い声の絶えない中、恒例の大西久光氏(35回卒:関学大ゴルフ部4年(主将)時の関西学生選手権で往年のトップアマ中部銀次郎氏との対戦を制した話は余りにも有名。TV解説者、コース設計者など様々な分野で活躍中の日本ゴルフ界のレジェンド的存在)による「意外と知られていないゴルフの楽しみ方&上達法」では皆さん真剣に聴き入っておられました。話も尽きぬうちに時間も過ぎ、三田牛、ワイン、キャディバッグ、ゴルフボールなど参加者全員が各自賞品を手に、今回も皆さん笑顔での解散となりました。

中山裕雄(60回卒)

[参加者(組合せ)]

1	坪井弘光(35回)	大西久光(36回)	西村貞一(45回)	綿谷 卓(60回)
2	織部成一(24回)	吉井友実(54回)	西村盾彦(55回)	菅原康雄(55回)
3	吉藤賢了(43回)	金鳥克己(43回)	南 聰(43回)	
4	杉原喬生(33回)	二宮一明(33回)	伊藤 孝(34回)	横内 昭(34回)
5	吉田 忠二(34回)	西村善明(36回)	本井敏雄(51回)	中山裕雄(60回)
6	濱名正洋(55回)	信谷 宗平(56回)	石渡秀二(56回)	

[コンペ上位入賞者] スコア(NET) HC(Wペリア) GROSS(OUT/IN)

優勝:坪井弘光(35回卒)	71.8	19.2	91(47/44)
2位:綿谷 卓(60回卒)	72.4	15.6	88(45/43)
3位:吉藤賢了(43回卒)	73.6	20.4	94(45/49)
4位:西村貞一(45回卒)	73.6	32.4	106(54/52)
5位:菅原康雄(55回卒)	73.8	19.2	93(49/44)
6位:西村善明(36回卒)	75.2	22.8	98(45/43)
7位:南 聰(43回卒)	75.2	28.8	104(54/50)
8位:吉井友実(54回卒)	75.6	14.4	90(45/45)
9位:石渡秀二(56回卒)	75.8	31.2	107(51/56)
10位:杉原喬生(33回卒)	76.4	21.6	98(48/50)

*ベストスコア賞:綿谷 卓(60回卒) ニアピン賞(4H中3つ):信谷 宗平(56回卒)

[優勝者:坪井弘光氏(35回卒)スピーチ]

35回卒の坪井です。今回、天候にメンバーに、何よりも「隠しホール」に恵まれ優勝する事ができ、大変嬉しく思います。私はドライバーで飛ばす事を楽しみにゴルフをしており、このような結果に驚いています。これから更にゴルフ道に精を出し、頑張ります。次回の幹事役はしっかり努めさせていただきます。皆様、ありがとうございました。

[ご案内]

今回は下記の通り平成27年4月26日(日)に行います。学院OBであればどなたでも参加できます。御夫婦、親子などファミリー参加も大歓迎です。ご希望の方はゴルフ会までお気軽にご連絡ください。

第16回甲陽学院同窓会ゴルフコンペ

日 時:平成27年4月26日(日) 午前8時集合
午前8時30分スタート

場 所:武庫ノ台GC
(神戸市北区:西宮北ICよりR176 経由約15分)

連絡先:甲陽同窓会ゴルフ会事務局

中村貞三(35回卒)

E-mail: teisan@d4.dion.ne.jp

吉井友実(54回卒)

E-mail: yoshii517@hcc6.bai.ne.jp

中山裕雄(60回卒)

E-mail: hiroo-na@d5.dion.ne.jp



田村 眞也 先生 逝去



母校で長らく教鞭をとられた田村眞也先生が昨年 10 月 27 日に逝去されました。享年 78 歳でした。田村先生は本校 36 回の卒業生で、1970 年から 2002 年まで英語を担当されました。

謹んでお悔やみ申し上げます。

田村眞也君を偲ぶ

“ついにゆく道とはかねて知りながら
昨日今日とは思わざりしを” (在原業平)

虫が知らせたのか。昨年 10 月初旬淡路島に大雨が降り洲本に浸水被害が出たと言うニュースがテレビで流れた。1 昨年 1 月奥様を亡くされ洲本の山の中腹に 1 人住いの田村君の事がふと気になり電話した。永い呼出音の後電話が転送され彼の携帯に繋がった。

「いま市立医療センターに入院して居り肺がんである」との弱々しい声が聞こえた。1 度行くから頑張る様に言って電話を切った。その後すぐに行かなかったのが悔まれてならない。彼は高校の文芸部（顧問村上千秋先生）で 1 年後輩であるそれ以来の永い付き合いである。彼が大学を出て北海道の興部高校の教師として赴任した後 1970 年（昭和 45 年）の大阪万博の年、小河清磨校長先生に呼ばれて母校の英語教師として戻って来たのである。一度疎遠になっていた彼との付き合いが再開した。

1975 年（昭和 50 年）頃より彼は学校側の同窓会常務理事となり私も彼や中島久先生引張られる様に同窓会の副会長を仰せつかった。それ以来第 1 回生の合田先輩から宮崎・原・友国・高垣・平田各会長や中島先生指揮の下同窓会 60 周年・70 周年・75 周年・80 周年・85 周年等の記念大会を田村君と共にプラン作成や式典運営更に 5 年毎に出版される同窓会名簿の広告依頼等に奔走したものである。その間春休みや夏休みには彼と九州や長野にプライベート旅行、更には私の経営する会社の宇部工場見学や周南市山地にある我社研修所での蛍狩り・バーベキュー大会などにも来て貰った。その頃よく

彼に私が言った事は「世間で先生と呼ばれる人は他人に頭を下げられるが自ら頭を下げる機会は殆どない。従って常に謙虚さを忘れて高慢になり勝ちである。又学校の先生は付き合いの人が殆んど決まって居るので出来る丈いろんな人々と交流をして人間の幅を拓げないと」等と身の程知らずに説教を垂れると彼はそうだなあと素直に耳を傾けて呉れていた。

その後 1984 年（昭和 59 年）より 17 年間計 33 回続いた「甲陽春秋会」と言う同窓生の縦割り異業種交流会（毎回 40 名～80 名参加）を立ち上げた時には中島先生と共に全て出席して頂いた。小河校長も時々参加して頂き小河・中島・田村 3 先生と会の終了後は神戸三宮や大阪北新地で盃を重ねた事を今も思い出す。私が 2002 年から一時福島県郡山市に転居し彼の地で「東北甲陽会」を旗揚げした時も第 1 回は当時の平田同窓会会長に出席して頂いたが第 2 回には定年退職されたばかりの田村君に来て貰った。前日より郡山の拙宅に泊まって貰ったが 2 人が盃を重ねるうちに飲み過ぎ翌日仙台での会に時間ぎりぎり間に合った事も昨日の事のように思える。洲本の彼の家にも何回も行ったが「私は 60 才でタバコをやめたが君はまだ吸っているのか」その時も「僕はやめません」と言っていたがそれが肺がんの原因に違いない。

私より若い君が何故早く逝くのか。誠に残念としか言いようがない。田村眞也君さようなら。

合 掌

尾山啓二（35 回卒・同窓会顧問）

訃 報

（平成 27 年 1 月 31 日現在）

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

藤田 宗市氏	福島 茂太氏	濱口 博章氏	竹野 勝也氏	膳 耕造氏	小川 和夫氏	石津金二郎氏	田中 康雄氏	石黒 欽一氏	島谷 慶二氏
(21 回)	(21 回)	(21 回)	(20 回)	(20 回)	(20 回)	(20 回)	(19 回)	(15 回)	(12 回)
14 年 1 月 29 日	14 年 4 月 18 日	14 年 1 月 17 日	14 年 1 月 16 日	09 年 10 月 17 日	14 年 5 月 21 日	13 年 9 月 26 日	14 年 6 月 20 日	13 年 12 月 16 日	14 年 4 月 30 日

垂水 辰男氏	三田 一雄氏	藤田 宗市氏	中樋 武治氏	田口 正彦氏	夏秋 勝美氏	北 信夫氏	辻本 勝見氏	平野 義二氏	上山 周二氏	横山 勝彦氏	吉本 浩三氏	榎尾 治良氏	池田 肇氏	森内 孝彦氏	樋口 邦和氏	田中 利廣氏	平山 揚造氏	田村 眞也氏	下村 勉氏	黄楊 荒雄氏	齋藤 堯起氏	大澤 安隆氏	中野 勇氏	山崎 昌弘氏	菅 宏氏	富岡慎太郎氏	殿村 和祥氏	天目 慶一氏	垂水 辰男氏	谷口 浩氏	新靱 耕氏	木村 恒次氏	一色 皓氏
(工專 2)	(高商 4)	(高商 3)	(高商 3)	(高商 3)	(高商 1)	(55 回)	(45 回)	(45 回)	(45 回)	(42 回)	(41 回)	(40 回)	(40 回)	(39 回)	(38 回)	(38 回)	(37 回)	(36 回)	(35 回)	(31 回)	(27 回)	(27 回)	(27 回)	(25 回)	(25 回)	(24 回)	(24 回)	(24 回)	(24 回)	(23 回)	(23 回)	(22 回)	(21 回)
13 年 11 月 20 日	13 年 11 月 18 日	14 年 8 月 29 日	14 年 8 月 10 日	13 年 10 月 23 日	13 年 9 月 10 日	14 年 10 月 4 日	14 年 8 月 31 日	14 年 5 月 31 日	96 年 1 月 8 日	15 年 6 月 8 日	12 年 8 月 2 日	14 年 8 月 13 日	14 年 10 月 7 日	15 年 1 月 31 日	14 年 12 月 19 日	14 年 4 月 23 日	10 年 1 月 20 日	14 年 10 月 27 日	14 年 8 月 13 日	14 年 6 月 14 日	14 年 7 月 9 日	13 年 7 月 16 日	14 年 11 月 30 日	13 年 11 月 24 日	14 年 1 月 25 日	14 年 7 月 6 日	14 年 12 月 6 日	13 年 11 月 28 日	13 年 11 月 20 日	14 年 8 月 21 日	14 年 6 月 20 日	12 年 6 月 6 日	13 年 1 月 12 日